

2013年度

事業報告書

2013(平成25)年4月1日



2014(平成26)年3月31日

2013年度事業報告について

第一部 西南女学院の概要

- | | | |
|----------------------------|---|----|
| 1. 法人の概要 | … | 3 |
| 2. 設置する学校の概要及び教育目標 | … | 3 |
| 3. 主要行事 | … | 5 |
| 4. 宗教教育活動 | … | 6 |
| 5. 学生・生徒・園児 | … | 10 |
| (1) 志願者数 (2) 在籍者数 (3) 卒業生数 | | |
| 6. 教職員組織 | … | 12 |
| 7. 役員・評議員 | … | 12 |
| 8. 理事会議案及び決議 | … | 13 |

第二部 事業の概要・財務の概要

- | | | |
|---------------------------------|---|----|
| 1. 事業及び決算の概要 | … | 16 |
| 2. 財務の概要（主な2013年度予算の執行状況） | … | 18 |
| (1) 資金収支計算 (2) 消費収支計算 (3) 貸借対照表 | | |
| (4) 学生数・財務比率などの推移 | | |

学校法人西南女学院

2013年度事業報告について

2014年5月

学校法人西南女学院

理事長 田中 綜二

西南女学院は、1899(明治32)年から20年間にわたり熊本で宣教活動を行った米国南部バプテスト海外伝道局宣教師L. D. クラーク女史の祈り「日本婦人に教育と伝道を」を継承し、1922(大正11)年4月、米国南部バプテストの宣教師J. H. ロウ先生(1876～1929)によって「キリスト教に基づく女子教育を行うこと。」を目的として創立されました。以来、今日まで、皆様のご支援を賜り、2013年4月18日には、91周年を迎えることができました。ひとえに西南女学院を信頼し、学生、生徒、園児を西南女学院におくってくださいます保護者の皆様と地域の皆様の深いご理解の賜と感謝いたしております。

さて、大学では2010年に、大学短期大学部では2009年に文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関により、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況について評価を受け、それぞれ基準を満たしているとの評価をいただき今日に至っております。そして、2013年度には、更なる教育研究水準の向上を図り「西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部将来計画 2013～2015年度」を策定いたしました。今後は、この計画についてPDCAサイクルを循環させることにより、大学及び大学短期大学部の一層の充実発展に努めてまいります。

また、中学校・高等学校におきましては、様々なステークホルダー(利害関係者)の皆様に対して、教育内容や学校生活をより分かりやすくご説明申しあげることができるよう、シラバス(学習計画)を始めとする教育情報の積極的公開に向けた取り組みを進めてまいりました。この度は、その第一歩として2014年度からのホームページを全面的に刷新する運びとなりましたのでご高覧いただきますようご案内申しあげます。

なお、2013年度の事業及び決算につきましては、本報告書の「第二部 事業の概要・財務の概要」において詳細をご報告申しあげておりますとおり、教育研究における重点分野及び学生生徒の人員等について事業計画を立て、評議員会及び理事会において承認を受けて実施いたし、全て計画どおりに完了いたしました。

西南女学院といたしましては、今日の就学事情や社会の構造的な変化に伴い、経営の安定化について、意識を強く持ち学校経営を行うことがより必要になったと考えておりますが、学生、生徒、園児並びに保護者の皆様からのご満足を頂けることを第一義とした教育に専心してまいります。

今後も、西南女学院でなければならない特色ある女子教育の実践に向けて、質の向上、環境整備に努め、一人ひとりを大切にする教育に取り組む所存でございますので、関係の皆様には、これまで同様ご後援賜りますようお願い申しあげ、2013年度の事業報告とさせていただきます。

第一部

西南女学院の概要

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

「感恩奉仕」

「神様」をはっきりと心に覚えれば覚えるほど、私たちの心の中に“有難い”という感じが湧いてきます。父親や母親がどれほど有難いものか、この世界に生まれたことがどれほど有難いものかがよく解かってきます。“有難い”との感が起こると、進んで親のために兄弟のために、また社会のために小さい事でも出来る限り働いて差し上げようとの感じが起こってきます。この“有難い”という気持ちを、西南女学院では『感恩』といい、他者の為に働く事を『奉仕』といいます。

この理念は、学生・生徒・園児への教育理念であると同時に、西南女学院の教育活動に参画している全ての職員の職務理念であります。

西南女学院は、キリスト教に基づく使命感、優れた教養と知識と技能をあわせもつ女性を育成するために、各学校の一層の充実を図りながら総合的な学園として発展し続けています。

(2) 沿革

1922(大正11)年	西南女学院設立(5年制高等女学校)
1938(昭和13)年	財団法人西南女学院設立
1946(昭和21)年	西南女学院専門学校設置(英語科・生活科)
1947(昭和22)年	学制改革により西南女学院中学校設置
1948(昭和23)年	学制改革により西南女学院高等学校設置
1950(昭和25)年	西南女学院短期大学設置(英語科・家政科)
1951(昭和26)年	学校法人西南女学院設立
1952(昭和27)年	西南女学院幼稚園設置
1958(昭和33)年	西南女学院短期大学保育科設置
1971(昭和46)年	西南女学院短期大学食物栄養科設置
1994(平成6)年	西南女学院大学保健福祉学部設置
2002(平成14)年	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科設置(短期大学食物栄養学科を改組)
2002(平成14)年	西南女学院大学人文学部人文学科設置(短期大学英語科を改組)
2002(平成14)年	西南女学院短期大学家政科を生活創造学科に名称変更
2003(平成15)年	西南女学院短期大学英語科、食物栄養科廃止
2004(平成16)年	西南女学院短期大学を西南女学院大学短期大学部に名称変更
2004(平成16)年	西南女学院短期大学附属シオン山幼稚園を西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園に名称変更
2006(平成18)年	西南女学院大学人文学部英語学科及び観光文化学科設置(人文学部人文学科を改組)
2008(平成20)年	西南女学院大学助産別科開設

2. 設置する学校の概要及び教育目的

※括弧内の数字は2013年度収容定員

(1) 西南女学院大学

西南女学院大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、キリスト教を教育の基盤として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性を涵養し、もって人類の福祉と文化の発展とに貢献する有為の人物を育成することを目的としています。

□ 保健福祉学部

保健福祉学部は、豊かな教養と倫理観を培い、看護、福祉、栄養の知識と技術を教授し、専門職者としての実践力と協働力を育むとともに、平和を愛する国際的視野をもって人々の幸福に貢献できる人材を育成します。

■ 看護学科(340)

看護学科は、保健と看護の知識、技術を修得させ、人々の健康ニーズに応え、保健医療福祉の向上に寄与する人材を育成します。

- 福祉学科(320)
福祉学科は、ヒューマンサービスの専門家として必要な知識、技術を修得させ、想像力と創造力のある福祉、教育及び保育の分野で貢献できる人材を育成します。
- 栄養学科(400)
栄養学科は、「人」と「食」の両面より栄養を総合的に理解し、人々の健康に貢献できる管理栄養士及び栄養士を養成します。
- 人文学部
人文学部は、豊かな人間性を養い、礼節を身につけ、専門的能力をもってグローバル化、情報化が進む国際社会及び地域社会において主体的に活動し、貢献できる人材を育成します。
- 英語学科(240)
英語学科は、英語によるグローバル・コミュニケーション能力をもち、国際的視野と地域的視野に立って思考し、自主的に行動できる有能な人材を育成します。
- 観光文化学科(240)
観光文化学科は、ホスピタリティのこころを育み、ツーリズム及びビジネス全般に有用な基礎的教養と専門的能力を備えた人材を育成します。
- 助産別科(20)
助産別科は、助産の対象である女性、乳幼児及びその家族を全人的に理解するとともに、助産の知識と実践力を有し、専門職として自立した助産師を育成します。

(2) 西南女学院大学短期大学部

西南女学院大学短期大学部は、キリスト教を教育の基本として女子に高い教養を授けるとともに生活に必要な専門の教育を施し、よき社会人を育成することを目的としています。

- 生活創造学科(200)
生活創造学科は、個人から家庭さらに社会への繋がりの中で、生活の質の向上と人間の幸福に貢献し、豊かな知性と感性を備える自立した生活者を育成します。
- 保育科(300)
保育科は、豊かな感性を有し、専門的知識と技術を備えた保育者を養成します。

(3) 西南女学院高等学校 全日制課程 普通科(480)

西南女学院高等学校は、キリスト教に基づき女子の人格完成を旨とし、教育基本法、学校教育法及びその他の教育に関する法令により高等普通教育を行うことを目的としています。また、入学者のうち西南女学院中学校を卒業した者に対して、その中学校における教育とあわせた中高一貫教育（併設型高等学校）を行います。

(4) 西南女学院中学校(240)

西南女学院中学校は、キリスト教に基づき心身の発達に応じて、女子の人格を養成することを旨とし、教育諸法令に則り、西南女学院高等学校における教育を合わせた、中高一貫教育（併設型中学校）を行うことを目的としています。

(5) 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園(180)

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園は、教育基本法、学校教育法並びに幼稚園教育要領に基づき学齢未満の幼児を、キリスト教精神をもって保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的としています。あわせて、西南女学院大学短期大学部の附属施設として、幼児教育に関する研究並びに保育科学生の実習機関としての役割を果たしています。

3. 主要行事 2013(平成25)4.1~2014(平成26)3.31

- | | |
|---|--|
| <p>4.1 新任職員辞令交付
新任職員オリエンテーション</p> <p>2 新任職員オリエンテーション聖書学課</p> <p>4 大学・大学短期大学部入学式</p> <p>6 中学・高校始業式</p> <p>8 中学入学式
高校入学・進級式
大学短期大学部前期授業開始</p> <p>10 幼稚園始園式
大学前期授業開始</p> <p>15 幼稚園入園式</p> <p>18 創立91周年記念式</p> <p>5.7 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>9 大学ミッションデー</p> <p>14 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>16 第1回学院聖書学課
大学ミッションデー</p> <p>20 墓前祈祷会</p> <p>24 後援会役員会・幹事会</p> <p>29 常任理事会、理事会、評議員会</p> <p>6.6 中学・高校ミッションマンス(6/6、6/13、6/20)</p> <p>14 後援会役員会・総会・新旧役員幹事懇親会</p> <p>7.9 後援会役員会・幹事会</p> <p>20 大学・大学短期大学部オープンキャンパス
中学・高校終業式</p> <p>22 幼稚園終園式</p> <p>27 中学・高校オープンスクール</p> <p>30 大学短期大学部前期試験(8月1日迄)</p> <p>8.1 大学前期試験(8月12日迄)</p> <p>2 大学短期大学部夏期休業(9月10日迄)</p> <p>4 大学・大学短期大学部3大学合同オープンキャンパス</p> <p>13 大学夏期休業(9月8日迄)</p> <p>21 職員研修懇談会(中学・高校)</p> <p>22 中学・高校始業式</p> <p>24 高校オープンスクール</p> <p>25 大学・大学短期大学部オープンキャンパス</p> <p>31 職員研修懇談会(大学、大学短期大学部、事務・労務)</p> <p>9.2 幼稚園始園式</p> <p>8 同窓会大分支部総会</p> <p>14 中学・高校文化祭</p> <p>21 大学・大学短期大学部オープンキャンパス</p> <p>27 常任理事会、理事会</p> <p>29 中学オープンスクール</p> <p>30 大学・大学短期大学部後期授業開始</p> <p>10.5 大学短期大学部特待生入学試験</p> <p>11 大学短期大学部特待生入学試験合格発表</p> <p>17 第3回学院聖書学課</p> <p>19 大学祭(20日迄)</p> | <p>11.2 西南音楽会</p> <p>5 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>7 大学ミッションデー</p> <p>9 大学短期大学部指定校・一般公募・卒業生子女・
キリスト教信者・併設校推薦入試
大学短期大学部社会人入試</p> <p>12 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>14 大学ミッションデー
大学短期大学部推薦・社会人入試合合格発表</p> <p>15 大学一般公募・卒業生子女・キリスト教信者推薦入試、
社会人・帰国子女入試</p> <p>16 大学指定校・併設校推薦入試
中学・高校オープンスクール</p> <p>20 校長選考委員会</p> <p>22 大学推薦・社会人・帰国子女入試合合格発表</p> <p>27 常任理事会・理事会・評議員会</p> <p>12.5 第4回学院聖書学課</p> <p>7 大学助産別科推薦入試</p> <p>12 中学・高校クリスマス礼拝</p> <p>13 大学助産別科推薦入試合合格発表</p> <p>14 幼稚園クリスマス礼拝</p> <p>18 常任理事会、理事会</p> <p>19 大学・大学短期大学部クリスマス礼拝</p> <p>20 幼稚園終園式</p> <p>21 中学・高校終業式</p> <p>25 大学・大学短期大学部冬期休業(1月5日迄)</p> <p>1.6 大学・大学短期大学部後期授業再開</p> <p>8 中学・高校始業式</p> <p>9 常任理事会
幼稚園始園式</p> <p>11 大学助産別科一般入試</p> <p>18 大学助産別科一般入試合合格発表</p> <p>28 高校推薦入学試験</p> <p>2.1 大学短期大学部一般前期入学試験</p> <p>6 高校一般入学試験</p> <p>4 大学一般前期入学試験
大学短期大学部後期定期試験(6日迄)</p> <p>5 大学後期定期試験(15日迄)</p> <p>7 大学短期大学部一般前期入学試験合格発表</p> <p>14 大学一般前期入学試験合格発表</p> <p>20 学院聖書学課</p> <p>21 幼稚園生活発表会</p> <p>3.1 高校卒業式</p> <p>4 大学・大学短期大学部一般後期入学試験</p> <p>11 大学・大学短期大学部一般後期入学試験合格発表</p> <p>15 幼稚園卒園式</p> <p>19 常任理事会</p> <p>20 大学・大学短期大学部卒業証書・学位記授与式
中学・高校終業式</p> <p>24 幼稚園終園式</p> <p>25 理事会・評議員会</p> |
|---|--|

4. 宗教教育活動 (2013年度宗教委員会報告より抜粋)

I. 現状と展望

(1) 全体的総括

2013年度は、テサロニケ信徒への手紙一5章17節から「絶えず祈りなさい」を年間聖句に選び、年間主題を

「祈る」とした。

2013年度は創立91周年を迎えた女学院が、新たなヴィジョンを抱きつつ前進する年となった。

施設設備面について特筆すべき点は、文部科学省の平成24年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の採択により、マロリーホールから4か所の大講義室に映像・音声継送放送を実施することになった。これにより、今年度から全学生と全教職員が物理的に可能となり、4教室を学科別に分けて2年生以上の参加を呼びかけた。また高学年の学生たちの出席促進のために、各学科の特色も反映できるよう学科推薦枠を設けた。今後も教職員と学生が共に聖書の同じメッセージを共有し、建学の精神である「感恩奉仕」をなお一層実践躬行する学院となるようプログラムの充実に努めたい。

東日本大震災被災地支援としては、大学・大学短期大学部、中学校・高等学校、及び、大学・大学短期大学部ハンドベルクワイヤーは日本バプテスト連盟へ募金等を送金し、また、大学・大学短期大学部は福島旭町キリスト教会附属こひつじ幼稚園にもクリスマス募金より奉げた。

「キリスト教教育研究会」は、若者への伝道をテーマに掲げて行う7年目の年となった。これまで6年間は、西南女学院とその地域とのかかわりに於いて、「若者への伝道」をテーマに会を開いてきたが、今年度は、前年の教育研究会総会での提案により、女学院のミッションデー講師による発題または講演がなされた。第1回目は、吉岡康子氏（青山学院女子短期大学宗教主任、大学・短大ミッションデー講師）により、「三つの窓を開こう」と題して発題がなされた。また第2回目は、本井康博氏（元同志社大学神学部教授、NHK大河ドラマ「八重の桜」時代考証担当）により、「ハンサムカップル・襄と八重―大河ドラマのウラ・オモテ」と題して講演がなされた。

「西南女学院キリスト教教育特別講演会」には、世界のバイオエシックス研究の第一人者である木村利人先生を迎え、「あなたのいのちは誰のもの？―バイオエシックスの視座から考える―」というテーマでご講演いただいた。2011年度以降、各分野の専門的研究家を講師に迎え各分野の専門の視点からキリスト教を語っていただいている。新シリーズ第一回目には、梅光学院大学名誉教授で日本文学研究の第一人者の佐藤泰正先生に、続く第二回2012年度には、日本の新約聖書神学研究の荒井献先生にご講演いただいた。

(2) 活動の概括

1. 教職員対象のプログラムとしては、例年通り、創立記念式、墓前祈祷会、教職員研修会、キリスト教教育特別講演会、クリスマスツリー点灯式、それに、新任オリエンテーション聖書学課、学院聖書学課（年5回）、教職員の朝の礼拝（毎日）、教職員祈祷会（中高月1回、本部大学月1回）を行った。新任オリエンテーション聖書学課は、昨年同様に終日プログラムで行った。

2. チャペル礼拝は、本学の根幹であり、礼拝の充実を全学の共通のテーマとして取り組んでいる。中高においては、昨年度から全体礼拝は、全教職員出席としているが、2011年度より、中高一貫教育に照らし、平常のチャペルもミッションマンズ・ミッションウィークも、すべて、中学・高校合同で行うことになっている。講師には、ミッションマンズは、鄭守煥牧師（在日大韓基督教会折尾教会）、ロッキー&マラー綾塚ご夫妻（アロマ・ミニストリーズ）、木村利人氏（早稲田大学名誉教授、元恵泉女学園大学学長）を、ミッションウィークには谷本仰牧師（南小倉バプテスト教会）を迎えて行った。

大学・大学短期大学部においては、春季ミッションデーでは、吉岡康子氏（青山学院女子短期大学宗教主任、日本基督教団吉祥字教会牧師）、神田英輔氏（「声なき者の友の輪」代表）を、また秋季ミッションデーでは、本井康博氏（元同志社大学神学部教授、NHK大河ドラマ「八重の桜」時代考証担当）、深井智明氏（金城学院大学教授）を講師に迎えて行った。また、大学・大学短期大学部合同クリスマス礼拝は、9年続いてアルモニーサンク「北九州ソレイユホール」を会場に、講師には土戸清氏（東北学院大学名誉教授・聖書学者）を迎えて行った。昨年まで2年続けて行ったページェントに替えて、舞台上にスライドショーで降誕場面を投影しながら聖書朗読と讃美を交互に行う「コーラルリーディング方式」で行った。また、後半の音楽プログラムでは、シオン山幼稚園の年長児たちを客席に迎えて共に合同クリスマスを祝った。

クリスマス献金については、幼稚園・中高・大学短期大学部・大学、及び大学ハンドベルクワイヤーで、例年同様に、各々の献金先を予め決めて募金活動に取り組んだ。献金先としては、日本バプテスト連盟や、福島バプテスト教会「こひつじ幼稚園」など従来の献金先に、新たに「声なき者の友の輪」を加えた。

3. 生徒・学生のための教職員等による諸活動は、前年度までは複数行っていたが、実態としては学生の参加は殆どなかった。これを改善すべく、開催時間帯や、活動内容についての見直しが求められるところである。

4. 近隣諸教会との協力関係により、生徒・学生の教会訪問プログラムが行われた。またこれに関わる「教会案内」発行も例年通り行った。また、前述したキリスト教教育特別講演会、及び、キリスト教教育研究会を行った。「現代神学を学ぶ会」は、年度内に1回開催し、「戦後日本の背後にある『明治憲法』の制定—神学との対話—」と題して、古川敬康 キリスト教センター長が行った。「牧師交流会」では、開会礼拝の平本祐子中尉（救世軍八幡小隊長）の奨励に続き、相互の良き交流がなされ、宣教へ向けての情報交換が行われた。これらの活動は「キリスト教教育研究会ニューズレター第七号」で報告した。3月の本研究会総会には牧師・教員等16名が出席し、年度を振り返り、次年度の方針を定めた。

5. 地域への開かれた活動としては、大学ハンドベルクワイヤーと高等学校のハンドベル部が教会、病院、公共施設、福祉施設などで、多くの地域奉仕を行った。その他、前述のキリスト教教育研究会、キリスト教教育特別講演会が行われた。

6. 教職員の主体的な活動として、中高では、定例として月の第一火曜日朝に「祈祷会」が持たれ、大学・大学短期大学部では、教職員有志による「朝の集い」祈祷会が月1回行われた。

(3) 2013年度の全体的評価

1. 2013年度の年間主題「祈る」は、イエス・キリストが私たちのただ中におられることを信じ、隣人のために共に祈ることであった。すなわち、日々、東日本大震災によって奪われた尊い生命と被災者の痛みを覚え、病や苦難に直面している生徒・学生への主の働きを期待することであり、被災地を憶えてのクリスマス献金はその具現化の一つであった。

2. キリスト教教育の効果としては、中高では、例年と同様に、全体礼拝への全教職員出席が実現しており、自主的教会出席の生徒も皆勤者が多く、サマーキャンプ参加者は増加している。大学・大学短期大学部では、今年度から、マロリーホールから4大講義室へのチャペルの中継放送が始まり、教員の出席が増加した。聖書学課は、全所属長が奨励を行ない、全職員が本学の根幹を多角的に理解できる機会として提供できている。学院全体の課題である「キリスト教教育の理解力の高い教職員」の育成に繋がるよう一層の前進が望まれる。

3. 2002年から関わっている「広島女学院大学の『平和学習』」に、2010年以来3年ぶりに大学・大学短大部双方から各1名が参加し良き学びと交流の機会を得ることができた。「キリスト教センター便り」は、全学の学生・生徒・園児対象に9年前に発刊され、当初は年10回発行していたが、昨年度より年間5回の季刊発行となった。当初の発刊目的は「学内の情報のコミュニティー」となることであったが、その具現化をチャペル計画の段階から進める一方で、2013年度は、これに加えて「学外への広報誌」となるべく装丁も内容も刷新した。しかしキリスト教センターHPは、立ち上がって5年目になるが、情報の刷新が課題であり、今後も改善の工夫を継続する。

4. 地域諸教会との協力関係を見ると、2013年度は、「キリスト教研究会」・「現代神学を学ぶ会」・「牧師交流会」などにより、継続的な交流がなされ、相互理解の広がりや深まりも増し、学院と諸教会、また諸教会間の関係、若者伝道の課題とそれに向けての協力の姿勢がより蜜に形成されてきている。特に、「キリスト教教育研究会」においては、前年度のキリスト教教育研究会総会での提案により、発題または講演は大学・大学短期大学部のミッションデー講師によって行われた。これにより、チャペルと教育研究会との共通項が生まれた。前年度実行したキリスト教関係の学会の会とキリスト教センターの活動との合流的開催による研究会は好評であり、今後もこのような試みを継続することが望まれる。また、これらの諸活動を通して、一層、主にある絆が深くかつ強くなることが期待される。

□ 2013年度 学院年間主題・聖句

年間主題：「祈る」

年間聖句：「絶えずいのりなさい」（テサロニケ信徒への手紙一5章17節）

月主題・聖句 （新共同訳）

月	主 題	聖 句
4月	学院の教育の原点	マタイ5章16節
5月	学院の教育の継承	ヨハネ15章16節
6月	学院の女子教育	Iコリント11章11節
7月	地域に仕える学院	ローマ13章10節
8月	平和	箴言12章20節後半
9月	基本的人権	詩編12編6節
10月	環境と生活	マタイ5章45節
11月	世界にある格差を覚えて	箴言19章17節
12月	キリストの誕生	ルカ1章35節
1月	キリストにある希望	ローマ8章32節
2月	魂の深まり	Iコリント13章2節
3月	世界に向かってはばたく	マタイ28章20節

□ 聖書学課（全体）

全職員を対象とした唯一のプログラムである聖書学課が年5回行われている。実施は次のとおりである。（16：20～16：50 於：マロリーホール）

月日	奨励者	主題・聖書	司会	奏楽
5/16 (木)	学院宗教主任 古川 敬康	「主の祈り」 マタイ福音書6章9～10節	大学・大学短期大学部 宗教主事補 齊藤 育子	中高教諭 為頼 康子
7/18 (木)	大学・大学短期大学部学長 植田 浩司	「すみの柱 ーキャンベル先生のメッセージー」 詩編144編12節	大学宗教主事 古川 敬康	大学講師 文屋 典子
10/17 (木)	学院宗教主任 古川 敬康	「主の祈りⅡ」 マタイ福音書6章9～13節	中高宗教部長 曾我 悦子	中高教諭 為頼 康子
12/ 5 (木)	事務局長 向 雅彦	「学校構成員としての事務 職員の視点から」 ヨハネ福音書15章16節a	大学・大学短期大学部 宗教主事補 齊藤 育子	中高教諭 佐野 智江
2/20 (木)	理事長 田中 綜二	「絶えず祈りなさい」 ルカ福音書22章44節 テサロニケ5章15節	学院宗教主任 古川 敬康	保育科講師 植村 和彦

□ 各校の主な宗教教育

<p>○ 大学・大学短期大学部</p> <p>A. チャペル（学校礼拝）</p> <p>B. 特別行事</p> <p>（1）春季ミッションデー 大学短期大学部：（火）5月7日・14日 大学：（木）5月9日・16日</p> <p>（2）秋季ミッションデー 大学短期大学部：（火）11月5日・12日 大学：（木）11月7・14日</p> <p>（3）クリスマス礼拝 12月19日（木）13:00～15:00 アルモニーサンク北九州ソレイユホール</p> <p>（4）送別礼拝 大学短期大学部：1月14日（火） 大学：1月23日（木）</p> <p>C. キリスト教学及びキリスト教的人間観（授業）</p> <p>D. その他の宗教活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドベルクワイヤー 2. クリスマン学生の会 3. キリスト教センター諸集会 4. 朝の集い（早朝祈禱会 基本的に月初め） <p>○ 幼稚園</p> <p>2013年 5月17日（金） 母の日礼拝 6月5日（水） 花の日礼拝 16日（日） 父の日礼拝 9月13日（金） 敬老礼拝 11月10日（日） シオン山教会子ども祝福式参加 14日（木） 収穫感謝礼拝 12月14日（土） クリスマス礼拝 17日（火） クリスマス祝会 22日（日） シオン山教会クリスマス合同 礼拝参加</p>	<p>○ 中学校・高等学校</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼 拝 クラス礼拝、放送礼拝 2. 諸集会活動（中高合同） 小羊会 7:50～8:15 第1土曜日 清掃活動 第3土曜日 祈禱会 宗教委員会 金曜日 お昼休み 3. 年間の対外的活動 施設訪問 12月20日「託寿館」（南小倉病院） 5月25日（土）「久山療育園」 参加人数 43名（中高合同） 4. ミッションマンス（特別伝道月間） 中学校・高等学校合同 6月6日、13日、20日 （木）（木）（木） 5. ミッションウィーク（特別伝道週間） 中学校・高等学校合同 10月17日（木）～19日（土） 6. サマーキャンプ（中高合同） 7月22日（月）～24日（水） ソラージュ日出 参加人数 80名 7. クリスマス礼拝 中学校・高等学校合同 12月12日（木） 8. 6年生のための特別礼拝 2014年2月26日（火） 福島義人牧師（日本基督教団東篠崎教会） ロウ記念講堂
---	---

5. 学生・生徒・園児

(1) 志願者数

2013(平成25)年5月1日現在

学 校 名		入学定員	入学志願者数		実入学者数		
			推薦	一般	推薦	一般	
大 学	保健福祉学部	看護学科	90	80 (2)	505 (3)	55 (2)	45 (2)
		福祉学科	80	51 (4)	240 (4)	50 (4)	55 (2)
		栄養学科	100	61 (1)	234 (0)	60 (1)	40 (0)
		計	270	192 (7)	979 (7)	165 (7)	140 (4)
	人文学部	英語学科	60	12 (1)	98 (0)	12 (1)	33 (0)
		観光文化学科	60	35 (0)	102 (1)	35 (0)	31 (0)
		計	120	47 (1)	200 (1)	47 (1)	64 (0)
	助産別科		20	7 (0)	22 (0)	7 (0)	6 (0)
	小計		410	246 (8)	1,201 (8)	219 (8)	210 (4)
	累計			1,447 (16)		429 (12)	
大学 短期 部	生活創造学科		100	32 (0)	18 (0)	32 (0)	6 (0)
	保育科		150	78 (0)	76 (1)	78 (0)	21 (0)
	計		250	110 (0)	94 (1)	110 (0)	27 (0)
	累計			204 (1)		137 (0)	
高等 学校	一般中学より		80	2	55	2	20
	西南女学院中学より		40	40		40	
	計		120	97		62	
中学校		80	72		28		
幼稚園		満3歳児	30	満3歳児	5	満3歳児	1
		3歳児	24	3歳児	17	3歳児	16
		4歳児	9	4歳児	4	4歳児	3
		5歳児	若干	5歳児	2	5歳児	2

【注】()内は西南女学院高校からの志願者数・入学者数を内数で示す。

大学推薦入試には、AO入試の志願者数・入学者数を含む。

大学一般入試には、社会人入試、センター試験利用入試及び外国人留学生入試の志願者数・入学者数を含む。

短期大学部推薦入試には、AO入試の志願者数・入学者数を含む。

短期大学部一般入試には、特待生入試、社会人入試、センター試験利用入試の志願者数・入学者数を含む。

満3歳児4名は9月からの入園予定。

(2) 在籍者数

学校・学科等		新 入 生	総 数	
			2013(平25).5.1 現在	2014(平26).3.31 現在
大 学	看護学科	100	398 (2)	391 (0)
	福祉学科	105	407 (1)	401 (2)
	栄養学科	100	405 (1)	393 (1)
	英語学科	45	195 (3)	192 (4)
	観光文化学科	66	300 (3)	296 (4)
	助産別科	13	13	13
	計	429	1,718 (10)	1,686 (11)
大 学 短 期 部	生活創造学科	38	85 (0)	85 (0)
	保育科	99	192 (1)	189 (1)
	計	137	277 (1)	274 (1)
中・高 4 5 6 年		62	168 (1)	166
中・高 1 2 3 年		28	117	117
幼稚園		17 (1)	86 (1)	89
合 計		673 (1)	2,366 (13)	2,332 (12)

(注) 休学者は在籍数の隣に()を付して内数で示す。

(3) 卒業生数

2014(平成26)年5月1日現在

2013(平25)年度卒業生		人 員	累 計	旧制女学校卒業生		累 計
学 校 名				専 門 学 校	英 語 科	
幼 稚 園	25	3,545	女 学 校		2,147	
中 学 校	48	12,096	専 門 学 校 累 計 (203)	英 語 科	87	
高 等 学 校	55	13,891		生 活 科	116	
大 学 短 期 大 学 部	(英 語 科)	-	9,460			
	生活創造学科	47	10,378			
	保育科	90	7,771			
	(食物栄養科)	-	4,032			
	計	137	31,641			
大 学	看護学科	99	1,470			
	福祉学科	105	2,197			
	栄養学科	104	908			
	英語学科	50	254			
	観光文化学科	80	349			
	人文学科	-	388			
	助産別科	13	108			
計	451	5,674				
合 計		716	66,847	合 計	2,350	
総 数 (卒業生総数)			69,197			

(注) 中学校卒業生48名の中、内部高校進学者数48名

6. 教職員組織

教職員数（2014（平成26）年3月1日現在）

	教員数	職員数	計
本部	—	12	12
大学・大学短期大学部	118	56	174
中学校・高等学校	41	2	43
大学短期大学部附属 シオン山幼稚園	7	1	8
計	166	71	237

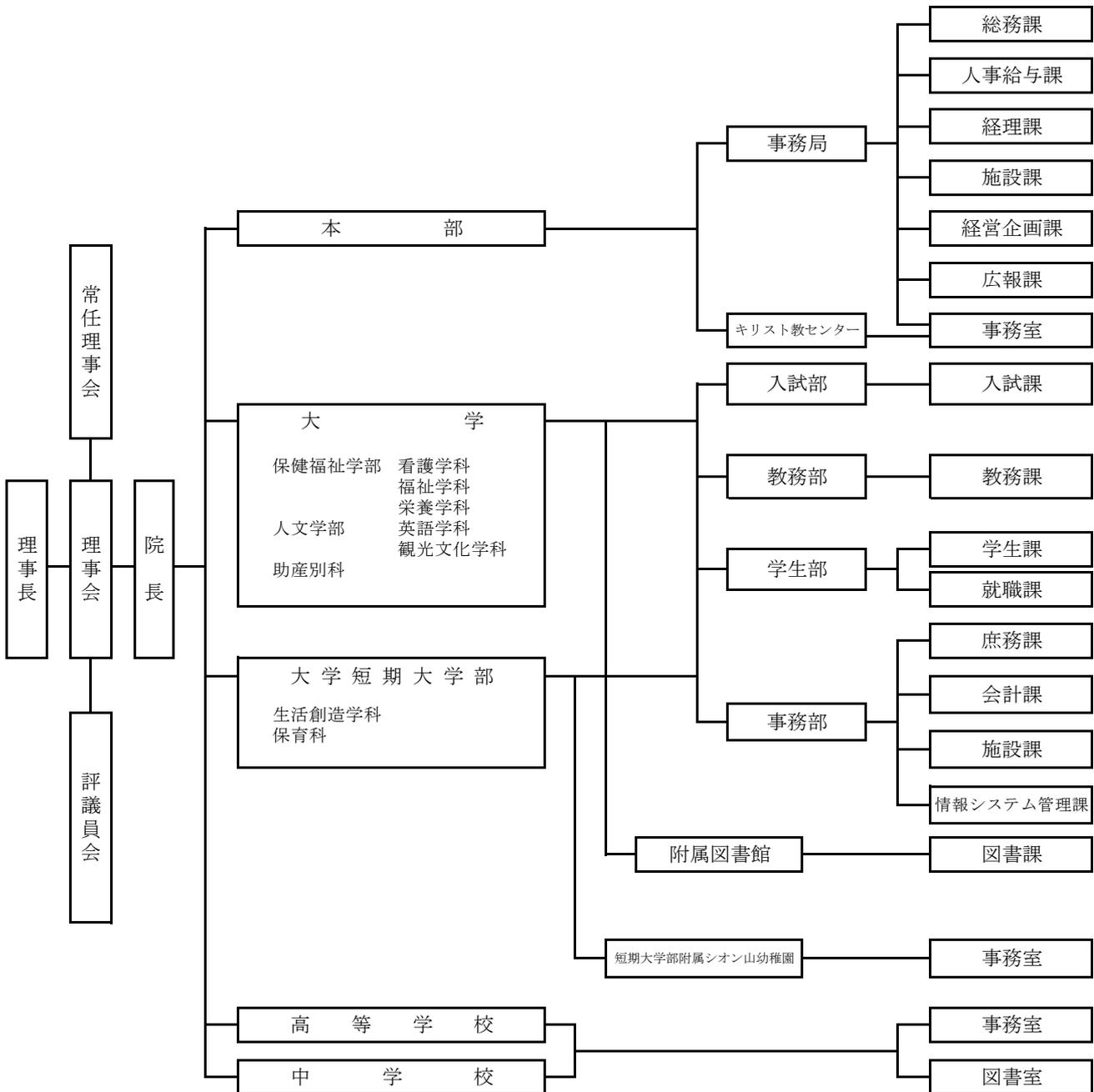
7. 役員・評議員数（2014（平成26）年3月1日現在）

理事（理事長 田中綜二）

定数	19名	現員	16名
監事	定数 2名	現員	2名
評議員	定数 41名	現員	35名

組織図

2014(平成26)年3月1日現在



8. 理事会議案及び決議

2013(平成25)年4月～2014(平成26)年3月

第1回 2013(平成25)年5月29日(水)

- ・2012(平成24)年度決算等について
 - (1) 決算報告 承 認
 - (2) 事業報告 承 認
 - (3) 監事による監査報告 承 認
- ・人事について 承 認
- ・西南女学院大学学則改正(案)について 承 認
- ・西南女学院大学助産別科規程改正(案)について 承 認
- ・2014(平成26)年度大学及び大学短期大学部学納金について 承 認

第2回 2013(平成25)年9月27日(金)

- ・人事について 承 認
- ・2014(平成26)年度予算基本方針(案)について 承 認

第3回 2013(平成25)年11月27日(水)

- ・人事について 承 認
- ・2013(平成25)年度補正予算(案)について 承 認
- ・特定公益増進法人の証明申請について 承 認
- ・学校法人に対する寄附の税額控除に係る証明申請について 承 認
- ・学校法人西南女学院公益通報に関する規程(制定案)について 承 認
- ・西南女学院中学校・高等学校校納金について 承 認
- ・西南女学院中学校・高等学校特別奨学生規程改正(案)について 承 認

第4回 2013(平成25)年12月18日(水)

- ・人事について 承 認
- ・任期満了に伴う中学校・高等学校長の選考について 承 認

第5回 2014(平成26)年3月25日(火)

- ・任期満了に伴う役員及び評議員の選任について(1) 承 認
- ・2014(平成26)年度事業計画及び当初予算(案)について 承 認
- ・任期満了に伴う役員及び評議員の選任について(2) 承 認
- ・西南女学院本部規程改正(案)について 承 認
- ・中学校・高等学校副校長候補者推薦について 承 認
- ・人事について 承 認
- ・西南女学院大学学則改正(案)について 承 認
- ・西南女学院大学短期大学部学則改正(案)について 承 認
- ・西南女学院大学「共同研究費取扱規程」改正(案)について 承 認
- ・動物実験に関する規程等の制定について
 - (1) 動物実験規程 承 認
 - (2) 動物実験規程細則 承 認
 - (3) 動物実験委員会規程 承 認

第二部

事業の概要・財務の概要

1. 事業及び決算の概要

○ 事業について

2013年度は、学部学科の改組・新增設は行わず、教育研究における重点分野、学生生徒の人員等について事業計画を立て予算を編成し2012年度第3回評議員会及び第6回理事会において承認を受けて実施いたし、次の事業について全て計画どおりに完了することができました。

[法人本部]

- 1号館建物耐震診断調査
- 旧大学テニスコート周辺敷地境界フェンス工事
- 行政指導に基づくPCB廃棄物処理

[大学・大学短期大学部]

- 1号館西側及び音楽館トイレ改修
- 1号館外壁南面東面補修、塗装工事
- 3号館高架水槽取替工事
- 5号館建物耐震補強工事
- 1号館及び8号館高圧ケーブル等取替工事
- 図書館システムのリプレース
- 1号館5階のテレビ撤去及び天井補修工事
- 1号館5階、3号館3階、8号館1階の教室のモニターテレビ入替
- 5号館情報処理演習室及びユーザ認証サーバのリプレース
- 情報処理演習室Officeライセンス契約
- マルチメディア語学教育eラーニングシステム使用権料（5年契約）の2年目
- キャリア支援プログラム「自己の探求」の実施
- 大学役職者に対するマネジメント研修の実施
- 大学職員に対する学内でのSD研修会実施
- 認定看護管理者ファーストレベル・セカンドレベル教育の実施
- 認定看護師教育課程「集中ケア」の実施

[中学校・高等学校]

- 高校棟の生徒用トイレの改修工事
- 図書検索システム導入
- 中学校・高等学校募集計画の強化改善
- 在籍生徒数に適した施設利用の実施

[幼稚園]

- 職員室窓の改修
- ホールの放送設備の整備

○ 決算について（千円以下四捨五入の関係で合計など数値が計算上一致しない場合があります。）

本法人の会計年度は、寄附行為第39条に規定されており、2013年度決算における会計期間は、2013年4月1日から2014年3月31日までの1年間としています。また、当決算は、2012年9月の予算基本方針承認、2013年3月の当初予算承認、2013年11月の補正予算承認を経て執行されてまいりました結果を私立学校法及び学校法人会計基準に則り、資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表により表しています。

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、①毎会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにすること及び②当該会計年度における支払資金（現預金）の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的とし、本法人の財政規模を表すものです。

当年度は、前年度繰越支払資金6億6,913万円に当年度収入合計45億6,809万円を加えた52億3,722万円が資金収入合計となりました。この資金収入合計から当年度支出合計45億3,861万円を控除した次年度繰越支払資金は、6億9,861万円（期首比2,949万円増加）となりました。

(2) 消費収支計算書

消費収支計算書は、一会計年度の消費収入及び消費支出の内容と収支の均衡状態を明らかにすることにより学校法人の経営状況を表すものです。消費収入とは、帰属収入（負債ではなく自己資金に該当する収入）から基本金（学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入から組み入れた金額：学校法人会計基準第29条）に組み入れられた額を控除した収入であり、消費支出とは、学校法人が教育研究等のサービスや管理を行うために必要な運営費用に退職給与引当金繰入額や減価償却額などの非資金を加えたものです。

当年度の帰属収入は、学生生徒等納付金から雑収入までの合計32億7,955万円で、前年度に比べ1億4,214万円減少しました。また、基本金組入額は、教育研究活動に使用する固定資産の取得価額及び奨学基金等の合計1億4,948万円としました。その結果、消費収入は、31億3,007万円で、前年度に比べ1億7,836万円減少しました。

消費支出は、人件費から徴収不能引当金繰入額までの合計32億5,862万円で、消費収入から消費支出を差し引いた当年度消費収支差額は、1億2,855万円の支出超過となりました。これに前年度からの前年度繰越消費収入超過額2億3,802万円及び当年度基本金取崩額526万円を加え、翌年度に繰り越される翌年度繰越消費収入超過額は1億1,472万円となりました。

(3) 貸借対照表

資金収支計算書や消費収支計算書が一会計年度の収支状況を表しているのに対して、貸借対照表は、一会計年度末における学校法人の財政状態（財産の状態）を表示する計算書であり、資産、負債、基本金及び消費収支差額の項目があります。このうち基本金と消費収支差額の合計額が学校法人の自己資金（正味財産）になります。

・資産の部

「固定資産」は、108億6,697万円（内訳は土地、建物、構築物などの有形固定資産53億3,226万円及び長期貸付金、諸引当特定資産などのその他の固定資産55億3,471万円）、「流動資産」は、現金預金6億9,861万円（資金収支計算書次年度繰越支払資金）に未収入金、貯蔵品、前払金などを加え8億7,666万円。以上、資産の部合計（総資産）は、117億4,363万円となりました。

・負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

返済期限が1年を超える長期借入金を含む「固定負債」10億1,896万円及び返済期限が1年以内の短期借入金を含む「流動負債」7億2,188万円の合計により総負債は、前年度末に比べ6,946万円減少し、17億4,084万円。基本金当期末残高は、98億8,807万円となりました。

自己資金は、基本金の部合計98億8,807万円と消費収支差額の部合計（消費収支計算書翌年度繰越消費収入超過額）1億1,472万円の合計で100億279万円となりました。

・貸借対照表前年比

資産総額は4,853万円減少、負債総額は6,946万円減少。自己資金は前年度末99億8,186万円、当年度末100億279万円で2,093万円の増加となりました。なお、当年度末の自己資金比率は、85.2%（前年度84.6%）です。

2. 財務の概要 (主な2013年度予算の執行状況)

当期の予算の執行状況について、その概況を報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

(1) 資金収支計算

資金収支計算は、次の目的に基づいて作成しています。

- ① 毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにする。
- ② 当該会計年度における支払資金(現預金)の収入及び支出のてん末を明らかにする。

資金収支計算について、その主な内容をご報告いたします。

【科目の説明です。】

学生生徒等からの授業料や入学金などです。科目等履修料、聴講料も含まれます。

国や地方公共団体からの助成金です。

翌年度に入学予定の学生生徒等からの授業料や入学金などです。

・長期、短期の貸付金の回収額。
・特定の目的のために積み立てた預金等を解約した場合の収入額。などです。

収入として計上したが未収入となっているものや前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するためのものです。

土地、建物、構築物を取得するための支出です。

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書などを取得するための支出です。

より良い教育研究サービスを提供するために、資金を積み立てるための支出です。

支出として計上したが未払いとなっているものや、前払支払支出として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより、資金の支出額を調整するためのものです。

資金収支総括表

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,441,842	2,459,833	△ 17,991
手数料収入	42,300	42,017	283
寄付金収入	49,528	48,653	875
補助金収入	442,717	485,378	△ 42,661
資産運用収入	15,795	22,421	△ 6,626
事業収入	44,369	45,564	△ 1,195
雑収入	104,134	172,087	△ 67,953
前受金収入	571,739	513,173	58,566
その他の収入	1,020,356	1,453,809	△ 433,453
資金収入調整勘定	△ 600,107	△ 674,841	74,734
当年度資金収入合計	4,132,673	4,568,094	△ 435,421
前年度繰越支払資金	669,126	669,126	
収入の部合計	4,801,799	5,237,220	△ 435,421

・大学では、耐震補強工事の実施に伴い、国庫補助金の交付を受けました。
・また、地域が大学に求める要望をしっかりと受け止め連携を深める事業を進めており、その一環として認定管理者制度ファーストレベル教育、認定看護師教育課程「集中ケア」及び「認定管理者制度セカンドレベル」を開設し、看護師教育を継続的に実施しています。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,348,971	2,401,525	△ 52,554
教育研究経費支出	622,679	537,868	84,811
管理経費支出	153,780	142,042	11,738
借入金等利息支出	3,453	3,452	1
借入金等返済支出	83,528	83,528	0
施設関係支出	115,481	130,074	△ 14,593
設備関係支出	72,322	62,043	10,279
資産運用支出	89,043	264,307	△ 175,264
その他の支出	752,594	982,208	△ 229,614
資金支出調整勘定	△ 74,726	△ 68,439	△ 6,287
当年度資金支出合計	4,167,125	4,538,608	△ 371,483
次年度繰越支払資金	634,674	698,612	△ 63,938
支出の部合計	4,801,799	5,237,220	△ 435,421

・大学・大学短期大学部では、図書館システム、教務システムの入替、建物の耐震化に向けた補強工事、5号館に電子黒板を設置、障がい者対応トイレへの改修等を実施し、中学・高校では、被服実習室の空調設備の入替、生徒用トイレの改修、ホームページの全面的な刷新等を実施しました。
・また、幼稚園においては遊具の付け替え、芝生の張替等を実施しました。
・このように教育・研究の充実及び学生・生徒・園児の安全確保のための施設・設備の改修を行いました。
・認定看護師教育課程「集中ケア」及び「認定管理者制度ファーストレベル教育、セカンドレベル教育」実施経費、他に各校における教育研究の実施に伴う諸経費、建物耐震診断費他を支出しました。

* 上記の金額は千円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合があります。なお、以下の表についても同様です。

当年度資金収支差額	△ 34,452	29,486	△ 63,938
-----------	----------	--------	----------

(2)消費収支計算

消費収支計算は、次の目的に基づいて作成しています。

- ①毎会計年度、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにする。
- ・消費収入とは、帰属収入(負債とならない収入)から基本金に組み入れられた額を控除した収入です。
- ・消費支出とは、会計年度中に消費する用役の対価及び減価償却額等の非資金を加えたものです。

消費収支計算について、その主な内容をご報告します。

消費収支総括表

(消費収入の部) (単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,441,842	2,459,833	△ 17,991
手数料	42,300	42,017	283
寄付金	49,528	50,775	△ 1,247
補助金	442,717	485,378	△ 42,661
資産運用収入	15,795	22,421	△ 6,626
事業収入	44,369	45,564	△ 1,195
雑収入	113,733	173,564	△ 59,831
帰属収入合計	3,150,284	3,279,552	△ 129,268
基本金組入額合計	△ 181,549	△ 149,483	△ 32,066
消費収入の部合計	2,968,735	3,130,069	△ 161,334

(消費支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	2,347,694	2,390,420	△ 42,726
教育研究経費	792,972	710,789	82,183
(うち、減価償却額)	(170,293)	(172,066)	(△1,773)
管理経費	161,601	149,170	12,431
(うち、減価償却額)	(7,821)	(7,822)	(△1)
借入金等利息	3,453	3,452	1
資産処分差額	0	2,630	△ 2,630
徴収不能引当金繰入額	0	2,162	△ 2,162
消費支出の部合計	3,305,720	3,258,623	47,097

帰属収支差額	△ 155,436	20,929	△ 176,365
帰属収支差額比率(注1)	-4.9%	0.6%	-
当年度消費収支超過額	△ 336,985	△ 128,554	
前年度繰越消費収支超過額	238,018	238,018	
基本金取崩額	0	5,256	
翌年度繰越消費収入超過額	△ 98,967	114,720	

注1 帰属収支差額比率=帰属収支差額÷帰属収入×100

【科目の説明です。】

学校法人への寄付による収入です。「消費収入の部」には現物による寄付も含まれます。

学校法人が提供した教育・研究等の対価として受け取る収入で、負債とならない収入です。

良好な教育環境を維持するための施設・設備等の額であり、帰属収入から差し引く金額です。

教職員に支払われる給与などです。

学生生徒等の教育研究のために支出する経費です。

総務、人事、財務、経理等の業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費などです。

学生生徒等納付金の納付困難、貸付金の回収不能に備え、見込額を引当金として準備します。

学校法人が使ったお金または用役に対して支出した金額です。

帰属収入から消費支出を差し引いたものであり純資産の増加を示します。

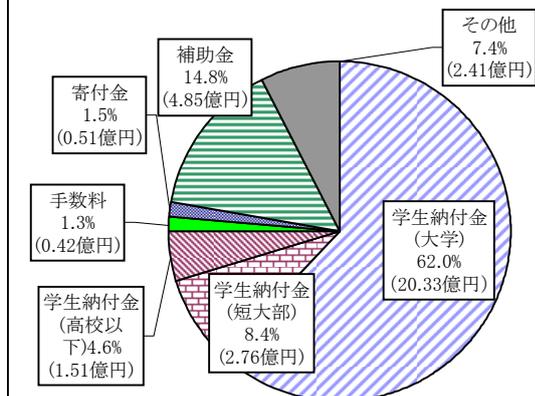
・学生生徒等納付金は収入(帰属収入)の75.0%を占めています。

・人件費には収入(帰属収入)の72.9%が充てられています。

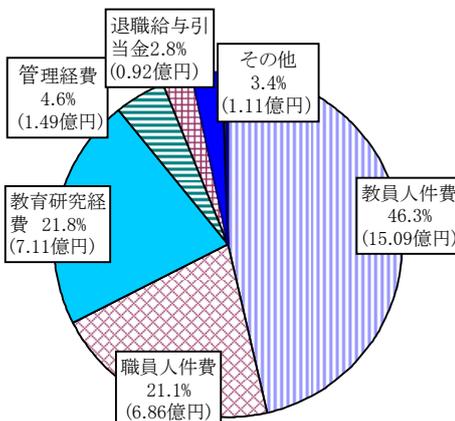
・徴収不能引当金繰入額を計上し、将来の債権回収不能に備えています。

・当期の帰属収支差額は予算に対して、金額では1億7,636万円、比率では5.5ポイント改善しました。また、当年度の消費収支は1億2,855万円の支出超過となり、基本金取崩額を加えた翌年度繰越消費収支超過額は1億1,472万円の消費収入超過額となりました。

帰属収入(3,279,552千円)の構成比率



消費支出(3,258,623千円)の構成比率



(3) 貸借対照表

① 貸借対照表とは、年度末における学校法人の財政状態(財産の状態)を表示する計算書であり、資産・負債・基本金及び消費収支差額の項目があります。

- ・資産とは、教育研究活動に使用される学校法人の財産です。
- ・負債とは、将来返済しなければならない債務です。
- ・基本金及び消費収支差額は、返済の必要のない学校法人の資金総額(正味財産)です。

貸借対照表について、前年度末からの増減の主な理由を報告します。

【科目の説明です。】

貸借対照表

資産の部		(単位:千円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定資産	10,866,971	10,877,789	△ 10,818	
有形固定資産	5,332,260	5,318,644	13,616	
土地	710,486	710,486	0	
建物	3,163,364	3,168,216	△ 4,852	
構築物	223,753	236,572	△ 12,819	
教育研究用機器備品	159,293	141,494	17,799	
その他の機器備品	6,119	8,623	△ 2,504	
図書	1,069,245	1,053,253	15,992	
その他の固定資産	5,534,711	5,559,145	△ 24,434	
電話加入権	4,450	4,450	0	
長期貸付金	58,347	60,662	△ 2,315	
諸引当特定資産	5,447,699	5,466,842	△ 19,143	
出資金	20,174	20,174	0	
敷金・保証金	18	18	0	
ソフトウェア	1,931	3,862	△ 1,931	
長期前払金	2,092	3,137	△ 1,045	
流動資産	876,661	914,373	△ 37,712	
現金預金	698,613	669,126	29,487	
未収入金	171,376	238,678	△ 67,302	
貯蔵品	1,653	1,778	△ 125	
前払金	1,946	2,224	△ 278	
立替金	3,006	2,500	506	
仮払金	67	67	0	
合 計	11,743,632	11,792,162	△ 48,530	

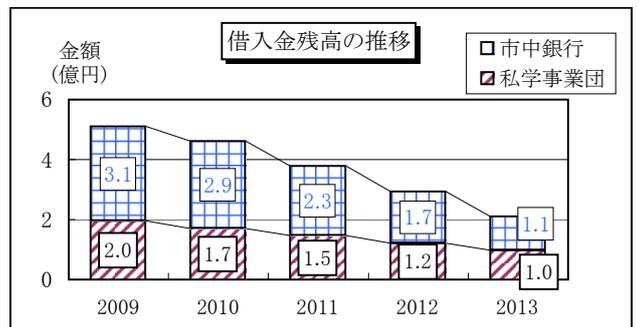
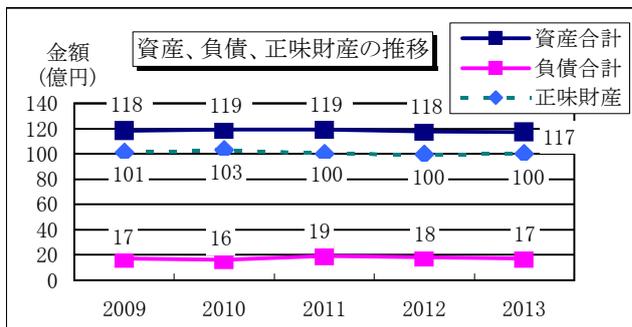
- 校地、校舎、体育館などの建物及び建物付属設備(空調など)の額のことで
- 教育研究のために使用される機械設備などの額です。
- 学生生徒等に貸与している奨学金の額のことで
- 特定の目的のために使用する資産のことで
- 現金及びすぐに引き出すことのできる預貯金のことで
- 決算日(3月31日)における退職資金交付額、補助金額等の未収額です。
- 返済期限が1年以上の借入金のことです。
- 2013年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額のことで
- 返済期限が1年以内の借入金です。
- 翌年度に入学する学生生徒等から受け入れた授業料や入学金などのことで
- 財産的な基盤を確保する額のことです。学校法人を安定的かつ永続的に経営していくために必要な額です。
- 資産から負債と基本金を差し引いた額です。プラスは収入超過を、マイナスは支出超過を表します。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部				
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定負債	1,018,960	1,093,142	△ 74,182	
長期借入金	127,536	211,064	△ 83,528	
退職給与引当金	862,128	874,709	△ 12,581	
長期未払金	29,296	7,369	21,927	
流動負債	721,882	717,160	4,722	
短期借入金	83,528	83,528	0	
未払金	44,287	38,293	5,994	
前受金	513,173	501,349	11,824	
預り金	64,164	78,030	△ 13,866	
修学旅行費預り金	16,730	15,960	770	
計	1,740,842	1,810,302	△ 69,460	
基本金	9,888,070	9,743,843	144,227	
消費収支差額	114,720	238,017	△ 123,297	
合 計	11,743,632	11,792,162	△ 48,530	

(参考)

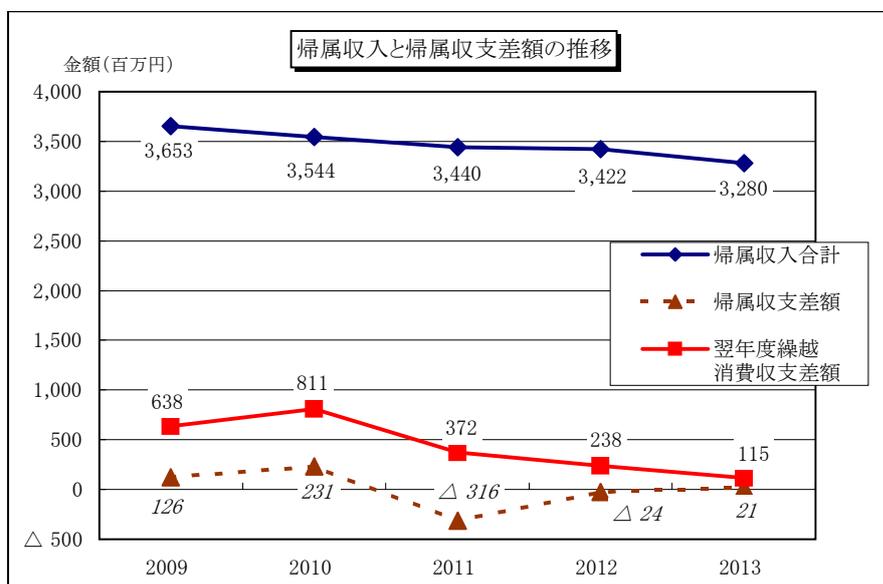
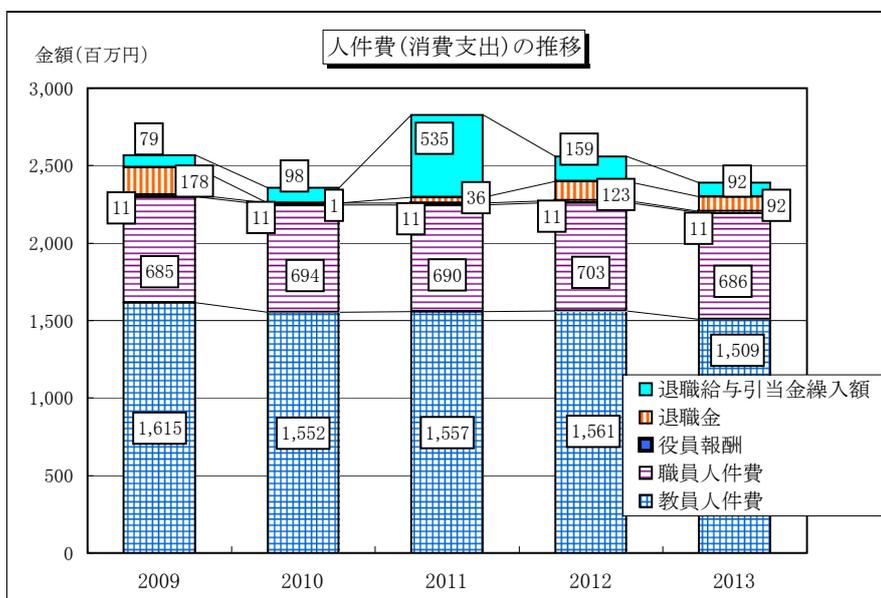
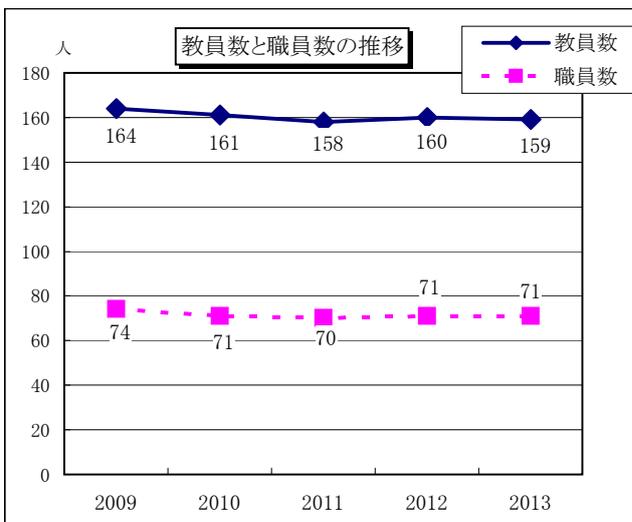
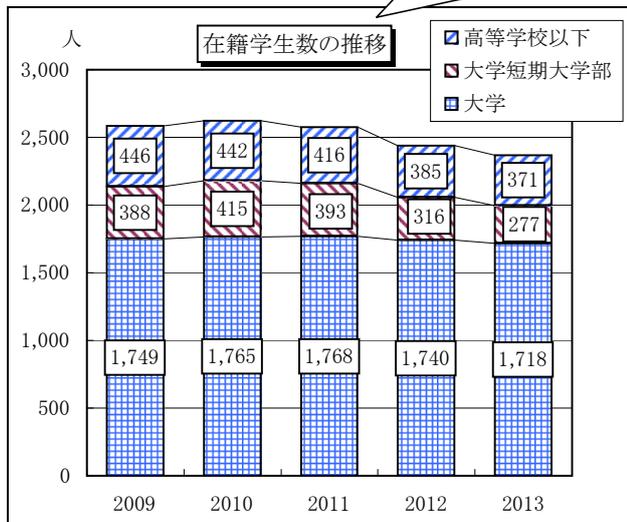
正味財産	10,002,790	9,981,860	20,930
※正味財産=資産-負債=基本金+消費収支差額			
減価償却額の累計額	4,300,533	4,226,788	73,745
基本金未組入額	249,499	304,416	△ 54,917

- ・大学5号館耐震補強工事、高校トイレ等の改修をしました。
- ・前年度に語学演習室のe-ラーニングシステム使用権利(5年間)を前払いしたため、2015年度以降分を長期前払金として計上しました。
- ・年度末退職者への退職金財団、県私学教育振興会からの資金交付金を未収入金として計上しています。
- ・図書館システム、教務システムの入替を5年リースにて取得。総支払額が300万円以上のため、資産(備品)扱いとした。これにより、2015年度以降の未払相当額を長期未払金として計上しました。



(4) 学生数・財務比率などの推移

2008年度、大学に助産別科(収容定員20人)を開設しました。2009年度からは大学保健福祉学部福祉学科を2コース(福祉心理養護コース(入学定員 50人)、子ども家庭福祉コース(入学定員30人))にしました。



※帰属収支差額=帰属収入-消費支出